

エコアクション21

環境活動レポート

活動期間：2015年10月～2016年9月

株式会社 小野田

所在地：静岡県葵区千代1丁目14番33号

作成日：平成28年 11月 2日（第12版）



目 次

表 紙	1 ページ
目 次	2 ページ
1.環境方針	3 ページ
2.組織の概要	4 ページ
3.環境活動実施体制	5 ページ
4.環境目標	6 ページ
5.目標と実績の評価(2015年10月～2016年9月)	8 ページ
6.目標と実績の比較(2015年10月～2016年9月)	9 ページ
7.評価内容(2015年10月～2016年9月)	13 ページ
8.本年度の主な取り組み内容(2015年10月～2016年9月)	14 ページ
9.次年度の主な取り組み内容(2016年10月～2017年9月)	15 ページ
10.環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無	16 ページ
11.代表者による全体評価と見直しの結果	17 ページ

1.環境方針

株式会社小野田 環境方針

基本理念

私達は自然の営みを配慮した事業活動を通して、地域と地球の環境保全に貢献し、美しい地球を子供達に引き継いでゆく。

環境方針

1. 当社の事業活動である、紙製品、紙加工品の流通・販売事業によって発生する下記の環境負荷を低減する。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

- ① 電力使用量の削減
- ② ガソリン・軽油使用量の削減

(2) 廃棄物発生量の削減

- ① 紙加工により発生する紙類の再生利用の徹底
- ② 使用済み木製パレットの再資源化の徹底

(3) 水資源使用量の削減

- ① 水道使用量の削減

2. グリーン購入、エコマーク商品の販売を推進する。

3. 環境関連法規制等を順守する。

4. 環境方針を、掲示し全社員に周知させ事業活動の中で環境に配慮した行動が出来るよう社員1人ひとりが環境保全の向上に努める。

制定日 2006年8月11日

改訂日 2015年10月1日

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞

2.組織の概要

1.事業社名及び代表者名

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞

2.所在地

本社・本社倉庫 : 静岡県静岡市葵区千代1丁目14番33号

慈悲尾倉庫(無人) : 静岡県静岡市葵区慈悲尾39番地

3.環境管理責任者及び担当者氏名、連絡先

環境管理責任者 : 井鍋 祐太

担当者 : 同上

連絡先 : TEL 054-277-2001

FAX 054-277-2007

E-Mail inabe@paper-onoda.co.jp

4.事業内容

洋紙、板紙、情報用紙、及び紙加工品の販売

5.事業の規模

(1)資本金 : 1,200 万円

(2)売上高 : 6.8 億円(2015 年度実績)

(3)従業員 : 13 名

(4)床面積 : 1040 m²

6.対象範囲

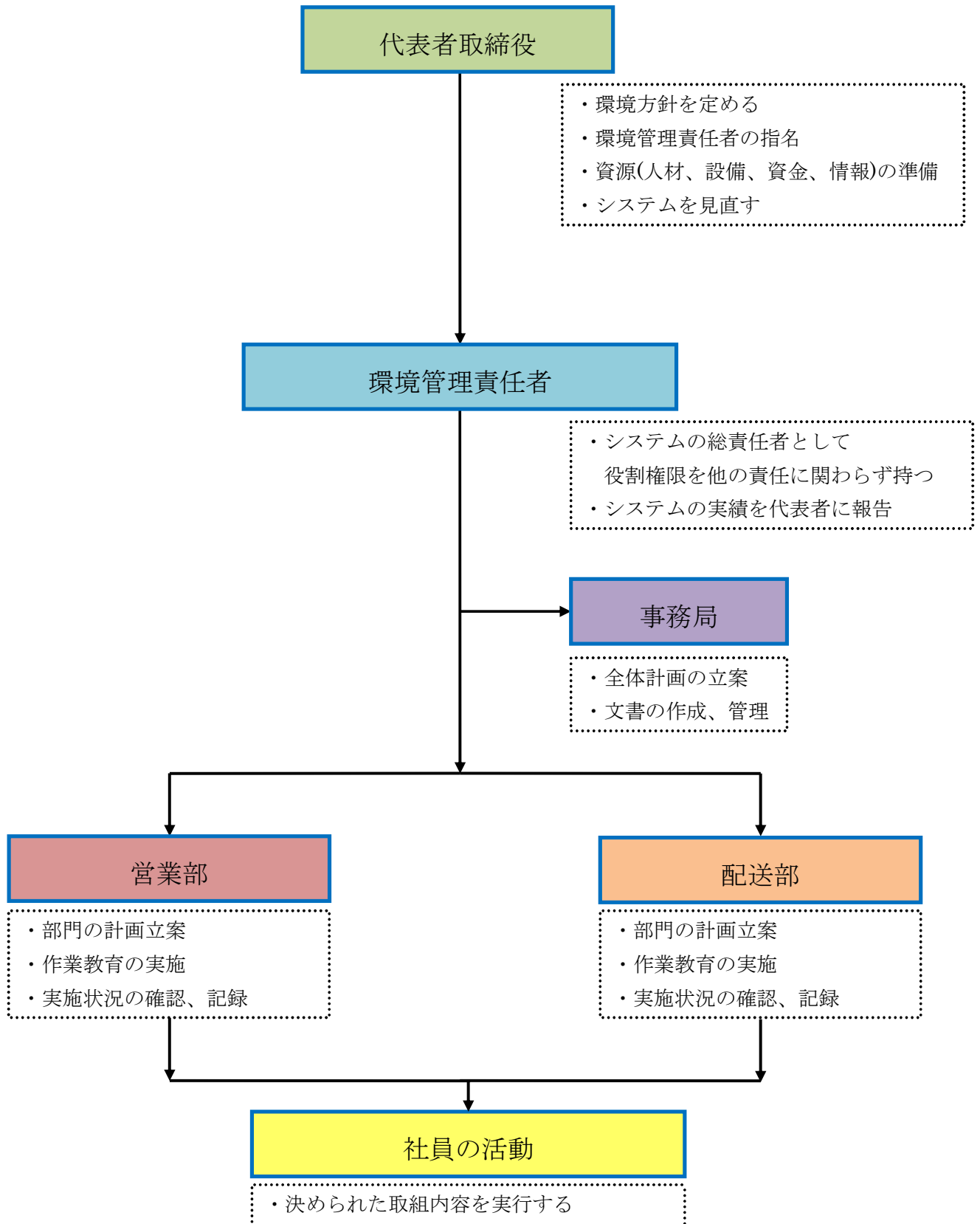
1.対象範囲(認証・登録範囲)

本社、慈悲尾倉庫

(全組織・全活動・全従業員を対象とする)

3.環境活動実施体制

1.組織図及び実施体制



4.環境目標

- 1.目標の設定にあたり、二酸化炭素量、水使用量については2011年度～2013年度の環境目標同様、2010年度を基準とする。
- 2.目標の設定にあたり、産業廃棄物、一般廃棄物について2013年度は2011年度～2013年度の環境目標を達成することが出来た為、新たに2013年度を基準とすることで、更なる資源循環を促してゆく。
- 3.グリーン購入の目標設定について、2010年度の実績が把握できない為、最新の実績が把握できる2013年度を基準とする。
 - (1)環境に配慮した製品づくりは目標の設定が難しい為、活動展開のみとする。
 - (2)一般廃棄物は過去の実績把握が出来ない為、運用期間で把握。

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2010年度	2014年度目標	2015年度目標	2016年度目標
二酸化炭素量 (2016年度までに 3%削減)	二酸化炭素量	kg/CO ₂	72,385	71,659 (基準年-1%)	70,935 (基準年-2%)	70,212 (基準年-3%)
	電力量 (二酸化炭素量)	kWh	61,329 (31,462kg/ CO ₂)	60,715 (31,147kg/ CO ₂) (基準年-1%)	60,102 (30,832kg/ CO ₂) (基準年-2%)	59,489 (30,518kg/ CO ₂) (基準年-3%)
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	8,690 (20,178kg/ CO ₂)	8,603 (19,976kg/ CO ₂) (基準年-1%)	8,516 (19,774kg/ CO ₂) (基準年-2%)	8,429 (19,572kg/ CO ₂) (基準年-3%)
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	7,921 (20,745kg/ CO ₂)	7,841 (20,536kg/ CO ₂) (基準年-1%)	7,762 (20,329kg/ CO ₂) (基準年-2%)	7,683 (20,122kg/ CO ₂) (基準年-3%)

※購入電力 二酸化炭素排出量係数：0.513kg-CO₂/kWh を使用 出典：中部電力(2013年)

※ガソリン 二酸化炭素排出量係数：2.322kg-CO₂/L を使用 出典：環境省

※軽油 二酸化炭素排出量係数：2.619kg-CO₂/L 出典：環境省

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2010年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
水資源使用量 (2016年度までに 3%減)	上水道使用量	m ³	1,076	1,065 (基準年-1%)	1,055 (基準年-2%)	1,044 (基準年-3%)

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2013年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
循環資源依頼 (100%を目標)	資源循環依頼	%	100% (17.98t)	100% (17.80t)	100% (17.60t)	100% (17.40t)
循環資源処理量 (100%を目標)	木くず (循環資源処理量)	%	100% (4.73t)	100% (4.68t)	100% (4.63t)	100% (4.58t)
単純焼却処理量 (2016年度までに 3%減)	一般廃棄物 単純焼却	t	1.97	1.95 (基準年-1%)	1.93 (基準年-2%)	1.91 (基準年-2%)
目標設定無し	その他	t	—	—	—	—

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2013年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
グリーン購入 継続	製品 グリーン購入	件	3	3	3	3
	事務用品		購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認

5.目標と実績の評価(2015年10月～2016年9月)

環境目標項目	項目	単位	基準年 2010年度実績	2015年度目標	2015年度実績	評価
二酸化炭素量 (2016年度までに 3%減)	二酸化炭素量	kg/CO ₂	72,385	70,935	65,916	◎
	電力量 (二酸化炭素量)	kWh	61,329 (31,462kg/ CO ₂)	60,102 (30,832kg/ CO ₂)	58,789 (30,158kg/ CO ₂)	○
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	8,690 (20,178kg/ CO ₂)	8,516 (19,774kg/ CO ₂)	6,317 (14,668kg/ CO ₂)	◎
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	7,921 (20,745kg/ CO ₂)	7,762 (20,329kg/ CO ₂)	8,053 (21,090kg/CO ₂)	△
水資源使用量 (2016年度までに 3%減)	上水道使用量	m ³	1,076	1,055	1,024	○

環境目標項目	項目	単位	基準年 2013年度実績	2015年度目標	2015年度実績	評価
循環資源依頼 (100%を目標)	資源循環依頼	t	100% (17.98t)	100% (17.60t)	100% (15.89t)	◎
循環資源処理量 (100%を目標)	木くず (循環資源処理量)	t	100% (4.73t)	100% (4.63t)	100% (2.89t)	◎
単純焼却処理量 (2016年度までに 3%減)	単純焼却	t	1.97	1.93	1.19	◎
目標設定無し	その他	t	—	—	—	—
グリーン購入 継続	グリーン購入	件	3	3	3	○
	事務用品		購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認	—
備考	評価基準 ◎：目標と実績を比較し、目標達成かつ達成率5%以上 ○：目標と実績を比較し、目標達成かつ達成率5%未満 △：目標と実績を比較し、目標未達成かつ達成率-5%未満 ×：目標と実績を比較し、目標未達成かつ達成率-5%以上					

※購入電力 二酸化炭素排出量係数：0.513kg-CO₂/kWhを使用 出典：中部電力(2013年)

※ガソリン 二酸化炭素排出量係数：2.322kg-CO₂/Lを使用 出典：環境省

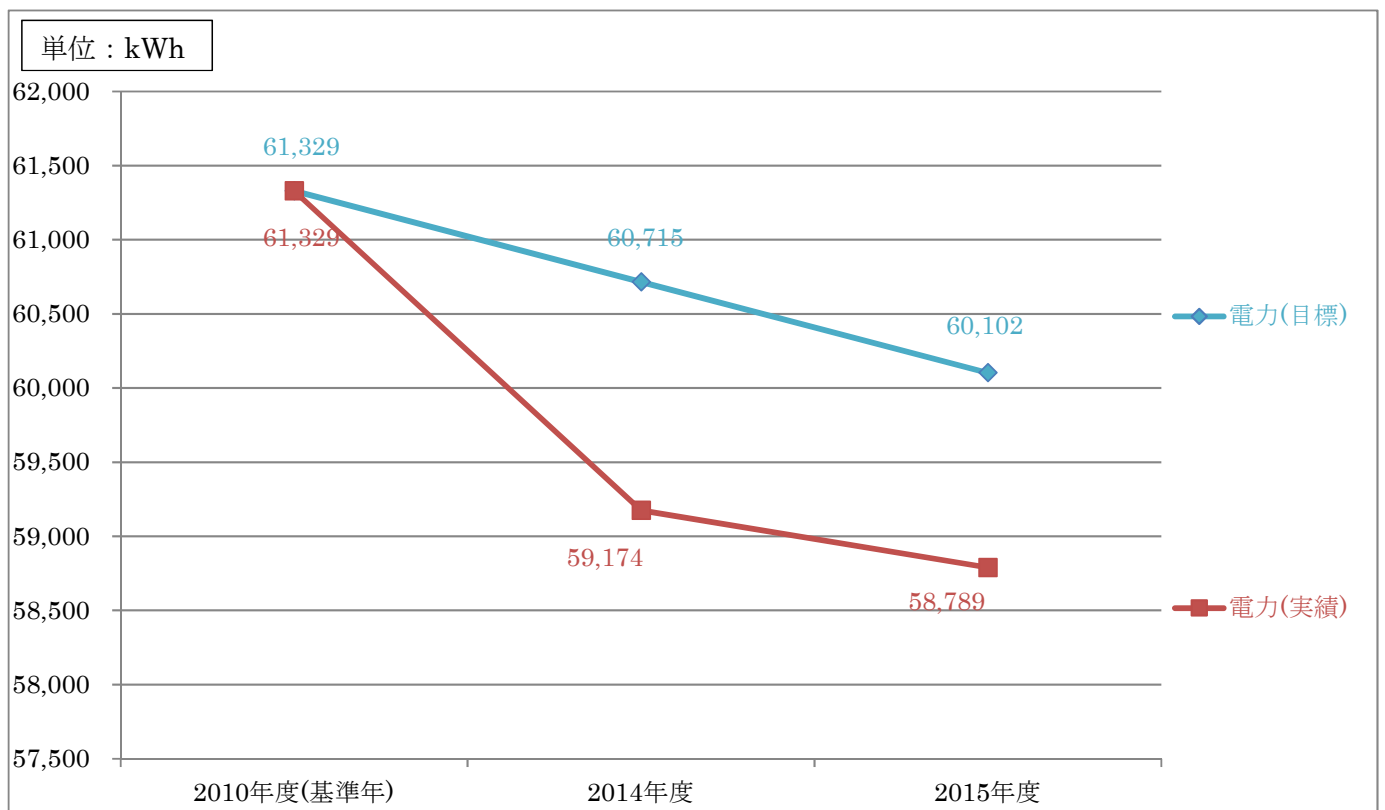
※軽油 二酸化炭素排出量係数：2.619kg-CO₂/L 出典：環境省

6.目標と実績の比較(2015年10月～2016年9月)

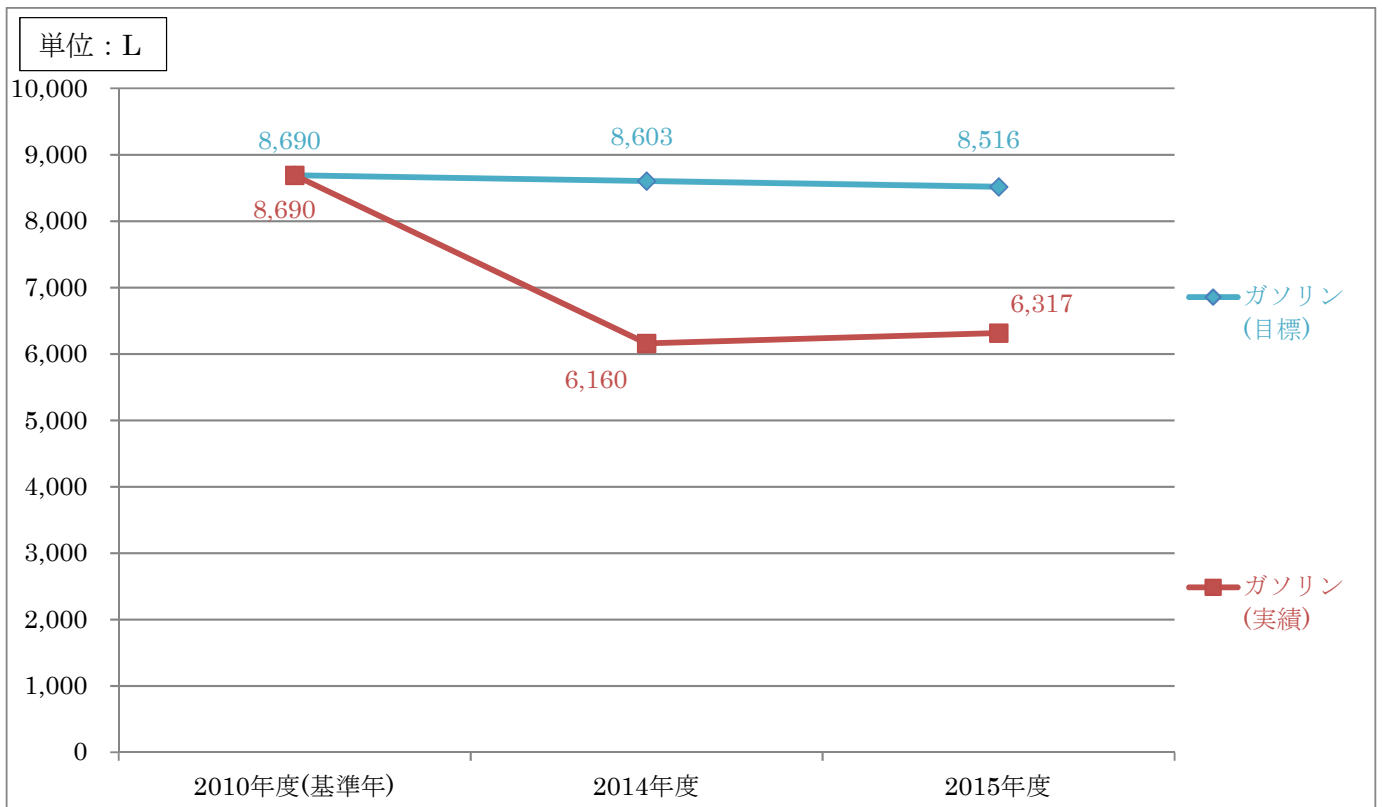
1.項目：二酸化炭素量



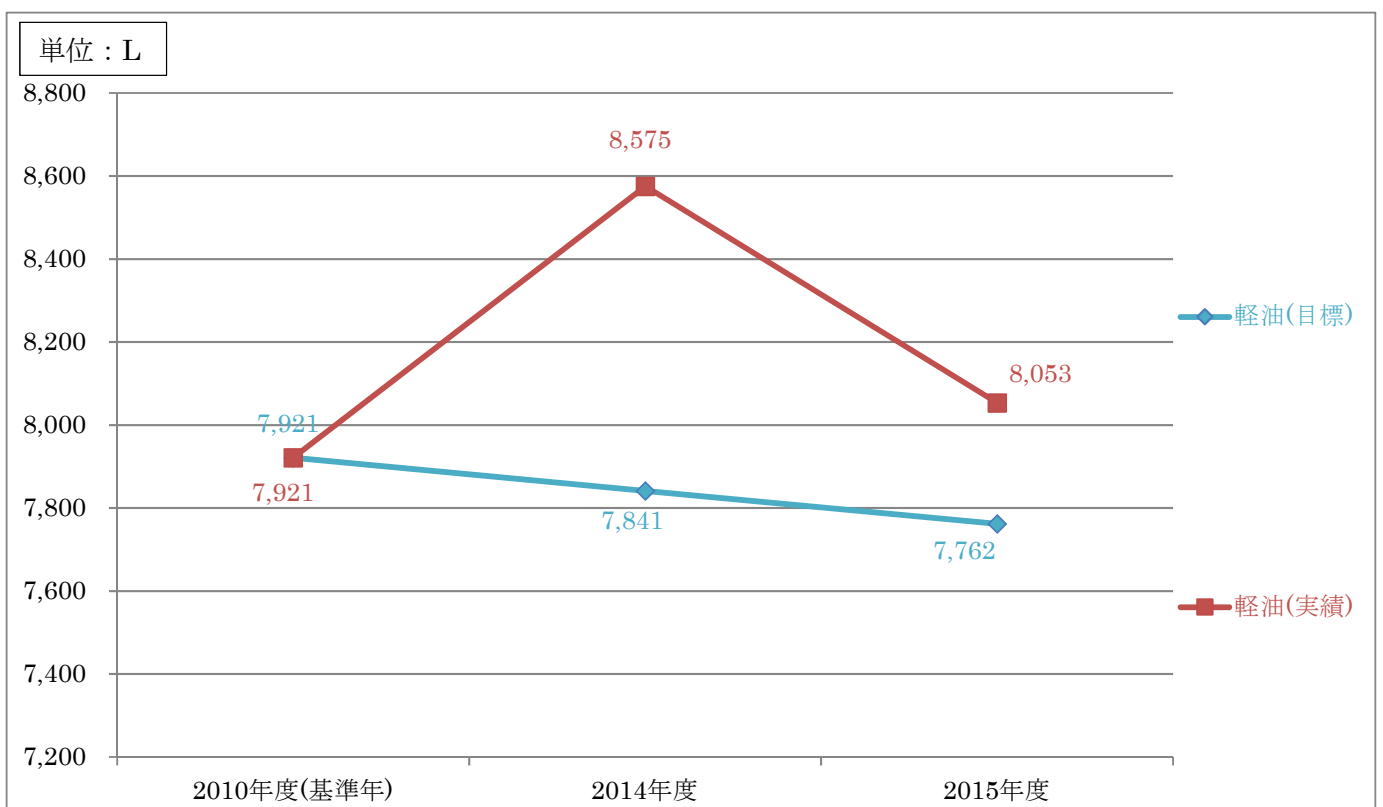
2.項目：電力量



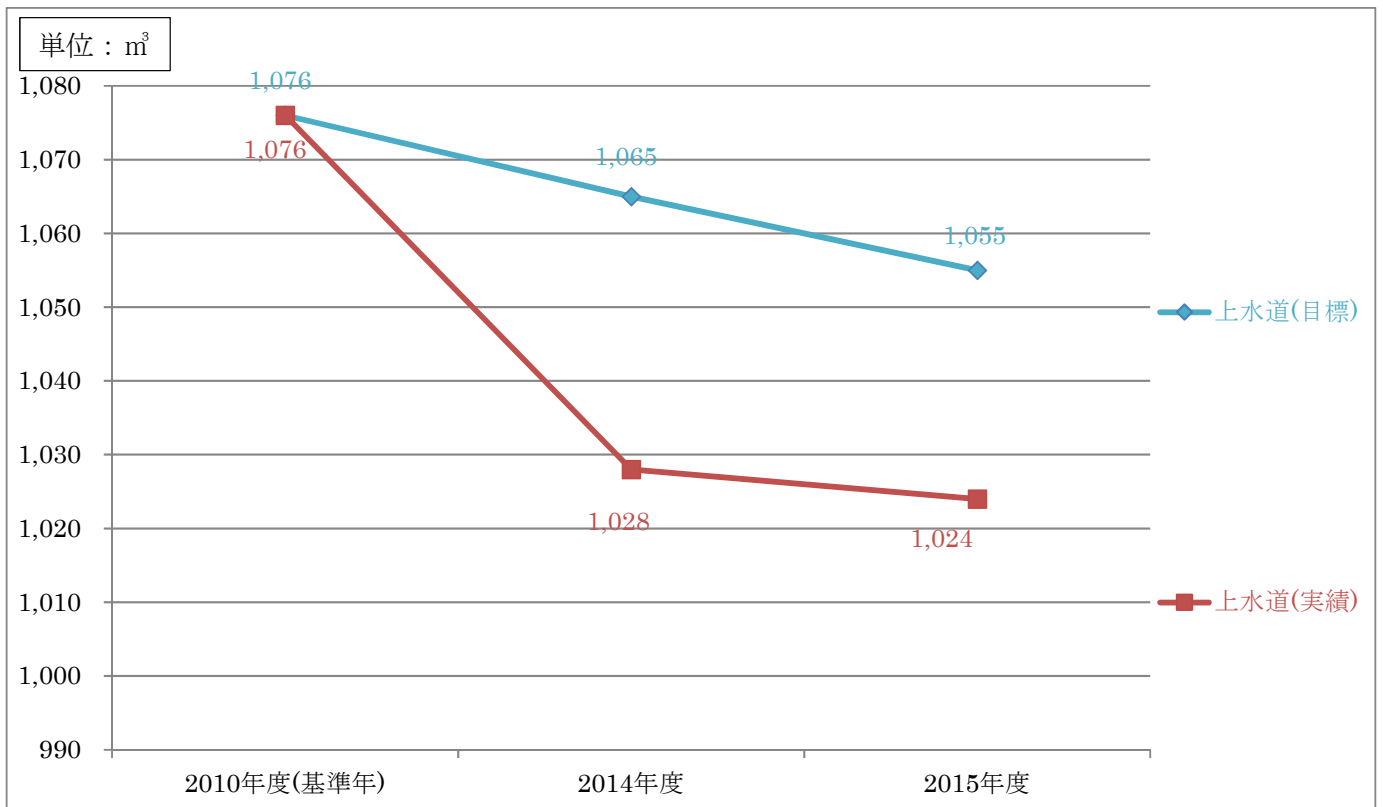
3.項目：ガソリン使用量



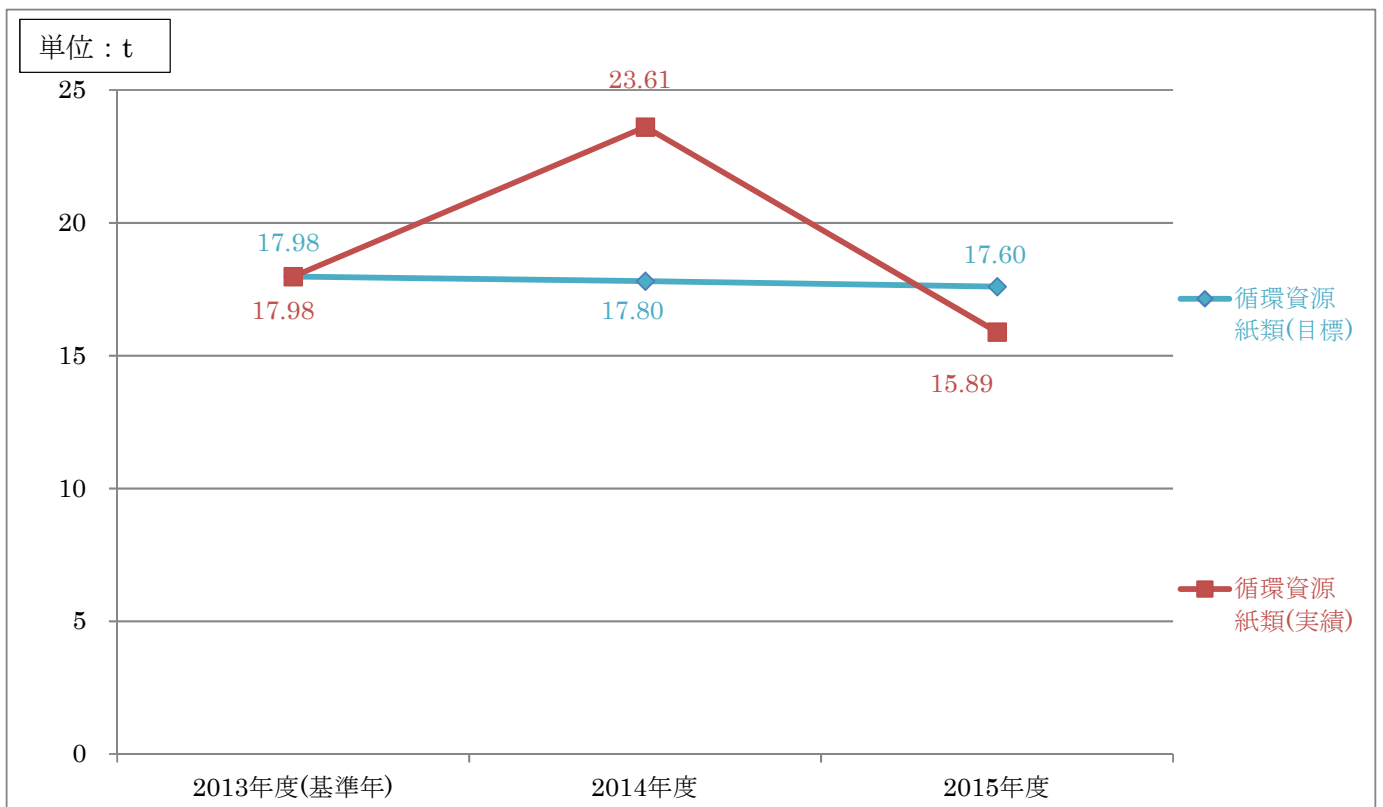
4.項目：軽油使用量



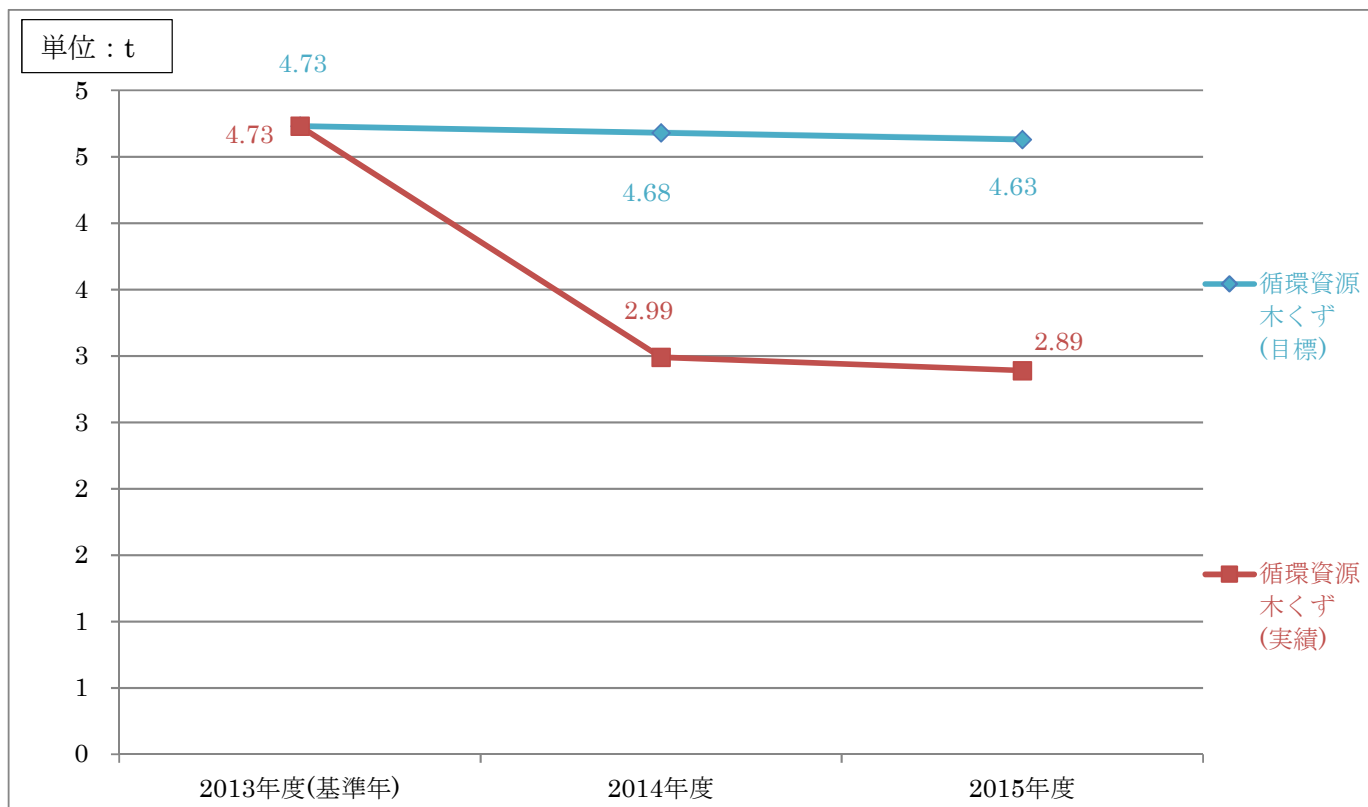
5.項目：上水道使用量



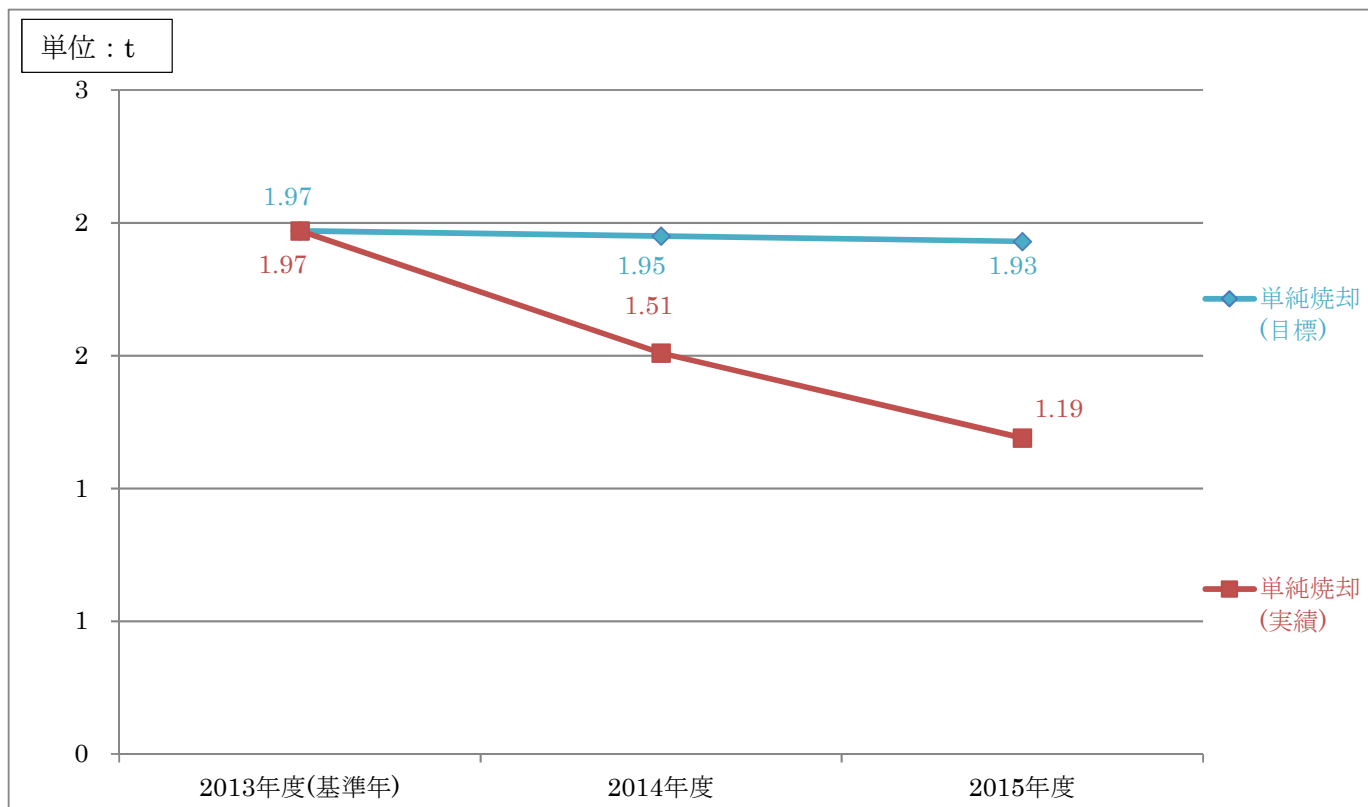
6.項目：循環資源処理量(紙類)



7.項目：循環資源処理量(木くず)



8.項目：単純焼却量



7.評価内容(2015年10月～2016年9月)

1.環境目標項目：二酸化炭素量(2016年度までに3%減)

二酸化炭素量…2015年度目標 70,935 kg-CO₂に対し、実績 65,916 kg-CO₂で目標達成。

① 電 力：デマンドコントローラーを活用、電力使用の上限を設定。

電力使用の上限に達すると予測される場合、警告が鳴る。

警告が鳴った場合、必要最低限の電力以外全て使用を止める。

警告が鳴らなくても、不必要な電力は都度使用を止める。

電力の購買先を2016年1月より中部電力(株)から鈴与商事(株)へ変更。

鈴与商事(株)が行うバイオマス発電や太陽光発電を通じて地球温暖化防止等環境保護活動に貢献。

②ガソリン：ハイブリット車の導入やエコドライブの徹底。

営業ルートを最適になる様計画し、走行距離を抑えた。

③ 軽 油：前年同様、計画配送を徹底。

しかし長距離配送が増えたことにより、走行距離が増えた。

結果、軽油使用量が増え、目標未達成となった。

次回目標設定時に見直しが必要と考える。

2.環境目標項目：水資源使用量(2016年度までに3%減)

上水道使用量…2015年度目標 1,055 m³に対し、実績 1,024 m³で目標達成。

①上水道：従来通り水を使った構内清掃を行っているが、水の使用を最小限に抑えた。

3.環境目標項目：循環資源処理量(2016年度までに毎年100%を目標とする)

循環資源処理量(紙類)…2015年度目標 17.60tに対し、実績 15.89tで目標達成。

循環資源処理量(木くず類)…2015年度目標 4.63tに対し、実績 2.89tで目標達成。

① 紙 類：単純焼却する量を減らすため、分別を徹底。

商品断裁時も断裁取り都合を考え、再資源化する端材を極力出さない様にした。

②木くず：破損した木製パレットは処理業者にて処理(木材チップ化)。

使用可能な木製パレットは極力再利用した。

結果、木くずの排出量が減り、目標達成。

4.環境目標項目：単純焼却処理量(2016年度までに3%減)

単純焼却量…2015年度目標 1.93tに対し、実績 1.19tで目標達成。

①単純焼却：紙類、木くずの再資源化を徹底。

再資源化を徹底したことにより、単純焼却量が減った。

5.環境目標項目：グリーン購入(2016年度まで購入数継続)

グリーン購入…2015年度目標 3件に対し、実績 3件で目標達成。

8.本年度の主な取り組み内容(2015年10月～2016年9月)

環境計画項目		実施責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容	
二酸化炭素の削減	エコドライブ	A.不必要なアイドリングの禁止	天野、井鍋	○	従業員のエコドライブへの意識は浸透した。今後も継続してゆく。	継続
		B.業務上不要な荷物を降ろす	天野	○		
		C.急発進・急加速の禁止	天野、井鍋	○		
		D.効率的な配送ルートと配送のタイミングを常に検討する	天野	○		
		E.早めにシフトアップ	天野	○		
		F.給油時、タイヤの空気圧を確認する	天野、井鍋	○		
	車他	A.自動車購入時は省エネ車採用	社長	○	自動車購入時、ハイブリット車を導入した。	継続
	空調等	A.社内のエアコン設定温度を冷房27℃、暖房20℃に設定	大河原	○	エアコンのリモコンに設定温度を記載したラベルを貼り、設定温度を明確にしたことで過度の冷暖房運転をしないようにした。エアコンのリモコンにエアコンの位置を記載したラベルを貼り不要な場所の冷暖房運転を止めた。	継続
		B.カーペット・ウォームビズの実施	井鍋	○		
		C.定期的にエアコンのフィルターを清掃する	天野	○		
		D.使用していない部屋の空調を止める	大河原	○		
		E.日射を遮るため、遮光対策の実施	井鍋	○		
	照明	A.消灯の徹底	井鍋	○	本年度、LED照明の導入を行わなかった。次年度、導入予定。	継続
		B.高効率照明の採用(LED照明等)	井鍋	-		
電気	A.未使用設備の電源を止める	天野	○	デマンドコントローラー導入、監視を行っている。	継続	
	A.デマンドコントローラーの導入	井鍋	○			
水使用削減	A.水撒き、洗車時の節水(ストッパー取り付け)	天野	○	井戸水を利用し散水量を削減した。	継続	
	B.植栽への水撒きに井戸水を使用	鈴木	○			
廃棄物削減	A.封筒などの再利用	井鍋	○	再利用できるものは社内用として使用	継続	
リサイクル	A.古紙を分別、古紙収集会社へ処理を依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	○	再生可能な資源は全量処理会社へ処理依頼。排出量自体を減らす為、排出抑制と再利用を徹底した。	継続	
	B.不要な木製パレットを廃棄物処理会社へ依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	○			
	C.不要なビニール類を廃棄物処理会社へ依頼しサーマルリサイクルを行う	井鍋	○			
グリーン購入	A.事務用品グリーン購入の推進	井鍋	○	実施できた。	継続	
教育訓練	A.環境経営システムの運用説明	井鍋	○	各項目、実施できた。	継続	
	B.緊急事態の想定訓練	井鍋	○			
備考	運用期間の評価期間は2015年10月～2016年9月末とする。			※評価の進捗欄は○△×で評価する。		

9.次年度の主な取り組み内容(2016年10月～2017年9月)

環境計画項目		実施責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容	
二酸化炭素の削減	エコドライブ	A.不必要なアイドリングの禁止	天野、井鍋			
		B.業務上不要な荷物を降ろす	天野			
		C.急発進・急加速の禁止	天野、井鍋			
		D.効率的な配送ルートと配送のタイミングを常に検討する	天野			
		E.早めにシフトアップ	天野			
		F.給油時、タイヤの空気圧を確認する	天野、井鍋			
	車他	A.自動車購入時は省エネ車採用	社長			
	空調等	A.社内のエアコン設定温度を冷房27℃、暖房20℃に設定	大河原			
		B.クールビズ・ウォームビズの実施	井鍋			
		C.定期的にエアコンのフィルターを清掃する	天野			
		D.使用していない部屋の空調を止める	大河原			
		E.日射を遮るため、遮光対策の実施	井鍋			
	照明	A.消灯の徹底	井鍋			
		B.高効率照明の採用(LED照明等)	井鍋			
	電気	A.未使用設備の電源を止める	天野			
		A.デマンドコントローラーの導入	井鍋			
	水使用削減	A.水撒き、洗車時の節水(ストッパー取り付け)	天野			
		B.植栽への水撒きに井戸水を使用	鈴木			
廃棄物削減	A.封筒などの再利用	井鍋				
リサイクル	A.古紙を分別、古紙収集会社へ処理を依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋				
	B.不要な木製パレットを廃棄物処理会社へ依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋				
	C.不要なビニール類を廃棄物処理会社へ依頼しサーマルリサイクルを行う	井鍋				
グリーン購入	A.事務用品グリーン購入の推進	井鍋				
教育訓練	A.環境経営システムの運用説明	井鍋				
	B.緊急事態の想定訓練	井鍋				
備考	運用期間の評価期間は2016年10月～2017年9月末とする。			※評価の進捗欄は○△×で評価する。		

10.環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

法規制等の名称	条項	適用詳細	遵守確認
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	4条	廃棄物の適正処理及び再利用による減量	適正処理済み。
産業廃棄物処理法		産業廃棄物の適正処理(木パレット)自社運搬	適正処理済み。
資源有効利用促進法		古紙、損紙、断裁くずの再利用	適正処理済み。
家電リサイクル法	6条	可能な限りの長期間使用(テレビ、冷蔵庫)製品廃棄時、有料にて適切な引渡し	処分実績無し。
フロン排出抑制法	5条	簡易点検	実行済み
		定期点検	来年度実行予定
自動車リサイクル法	8条	使用済み自動車の業者への引渡し	処分実績無し。
パソコンリサイクル法		有料にて適切な引渡し	処分実績無し。

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境法規制等の違反なし。

過去3年間にわたっても違反、訴訟、又、行政、関係機関からの指導なし。

11.代表者による全体評価と見直しの結果

二酸化炭素量、電力量、ガソリン、水道使用量については目標の数字を達成できた。

軽油使用量については、お客様のニーズに応えるために使用量自体が増えている現状がある為、次回目標設定時に、目標値の見直しが必要であると考えます。

弊社の主な事業内容に関わる紙類について、古紙の排出そのものを抑制する活動を行った結果、排出量そのものを抑えることができました。

古紙として処理しなければならないものについては全量、循環資源として処理しました。

次年度は中期環境目標設定の最終年である為、各項目の目標達成に向けて活動を続けてゆく。

2016年 11月 7日

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞